

◆ 今週のコメント

- ・ クロイツフェルト・ヤコブ病の報告が1例あります。これは、本年初めての報告で、昨年本市では、3例報告されています。本年第27週までに、全国では、77例が報告されています。
- ・ パラチフスの報告が1例あります。本年の累積報告数は、4例です。推定感染地域は、すべて国外(インド及びインドネシア)です。
- ・ 手足口病の定点当たり報告数は1.71で、過去5年平均値(1.09)を上回っており、報告数の多い状態が続いています。全国で、報告数は、増加が続いています。
- ・ ヘルパンギーナの定点当たり報告数は1.49で、これは本年で最も多い報告です。年齢階級別でみると、1歳が19例(31.2%)で最も多く、次いで2歳が10例(16.4%)となっています。

◆ 今週のトピックス:<麻しん>

- ・ 第27週の報告数は4例であり、第28週についても、既に6例が報告され、麻しんの本年の累積報告数は86例となりました。
詳細をトピックスに掲載しています。

◆ 発生状況

全数報告の感染症

- ・ 二類:結核 3例(喀痰塗抹陽性 2例, 無症状病原体保有者 なし)
【1月以降の累積報告数 188例(喀痰塗抹陽性 62例, 無症状病原体保有者 15例)】
- ・ 三類:腸管出血性大腸菌感染症(O157 VT1VT2, O157 VT2) 2例【1月以降の累積報告数 50例】
- ・ 三類:パラチフス 1例【1月以降の累積報告数 4例】
- ・ 五類:クロイツフェルト・ヤコブ病 1例【1月以降の累積報告数 1例】
- ・ 五類:麻しん 4例【1月以降の累積報告数 86例】

定点報告の主な感染症

(市内定点数 インフルエンザ定点68, 小児科定点41, 眼科定点10, 基幹定点1)

定点	感染症名	定点当たり報告数	報告数
インフルエンザ*	インフルエンザ	0.00	0
小児科 (降順5位まで)	① 感染性胃腸炎	2.98	122
	② 手足口病	1.71	70
	③ ヘルパンギーナ	1.49	61
	④ 水痘	1.41	58
	⑤ A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	0.76	31
眼科	流行性角結膜炎	0.70	7

病原体情報

(検体名は、紙面の都合上、咽頭ぬぐい液をNP、糞便をFC、髄液をSF、尿をURと略す。)

検出病原体(報告数)	臨床診断名(採取週)	検体名	検出病原体(報告数)	臨床診断名(採取週)	検体名
コクサッキーウイルスA4型(4)	かぜ症候群(第23週) かぜ症候群(第23週) かぜ症候群(第23週) かぜ症候群(第23週)	NP	コクサッキーウイルスB4型(1)	かぜ症候群(第23週)	FC
コクサッキーウイルスB5型(1)	不明熱(第24週)	NP	ポリオウイルス2型(1)	感染性胃腸炎(第15週)	FC
RSウイルス(1)	感染性胃腸炎(第18週)	FC, NP	A群ロタウイルス(1)	感染性胃腸炎(第16週)	FC
アデノウイルス1型(3)	(第15週) かぜ症候群(第19週) (第22週)	NP	アデノウイルス2型(3)	上気道炎(第19週) かぜ症候群(第23週) かぜ症候群(第23週)	NP
アデノウイルス5型(1)	A群溶菌咽頭炎(第20週)	NP	アデノウイルス40/41型(1)	感染性胃腸炎(第23週)	FC

【次ページ以降の主な内容】

発生状況の概況グラフ / 今週のトピックス:<麻しん>

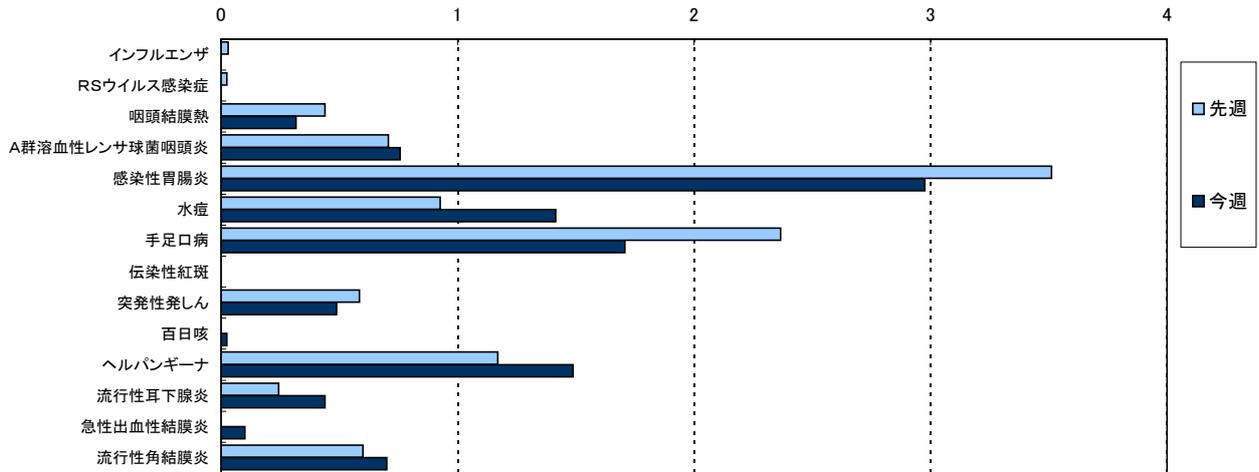
(注)京都市のデータは、平成20年7月11日現在の報告数で、全国の還元データと若干異なる場合があります。

また、本情報での患者数は、届出医療機関所在の保健所での集計で、患者の住所を示すものではありません。

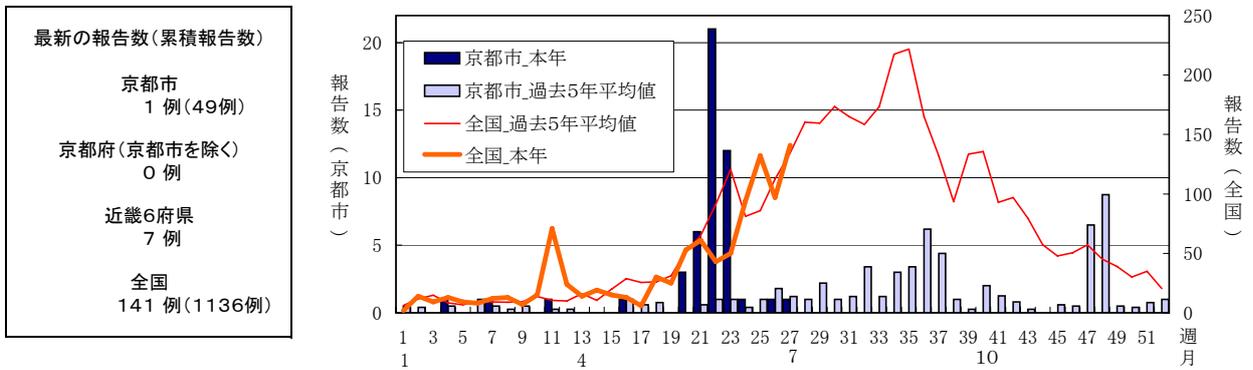
病原体情報は、病原体定点等から京都市衛生公害研究所へ搬入された検体から検出された病原体です。

◆ 発生状況の概況グラフ

1 今週(第27週)と先週(第26週)の定点当たり報告数の比較

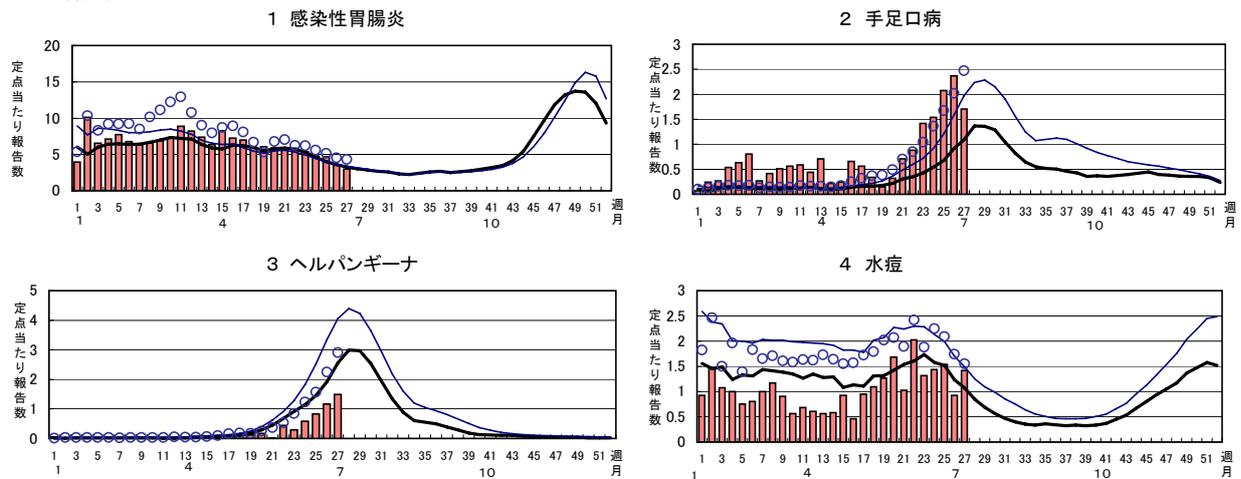


2 腸管出血性大腸菌感染症(三類感染症)の推移

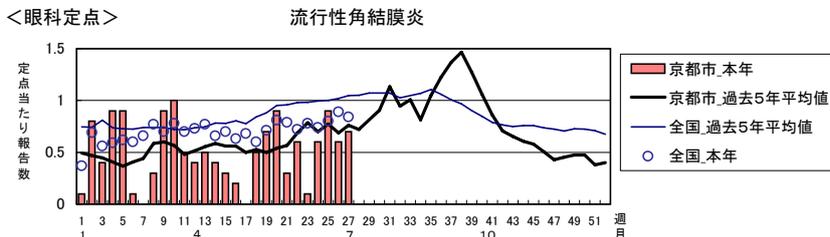


3 主な感染症(小児科)の定点当たり報告数の推移

<小児科定点>



<眼科定点>



第27週のトピックス: <麻しん>

第27週の報告数は4例であり、第28週についても、既に6例が報告され、麻しんの今年の累積報告数は86例となりました。

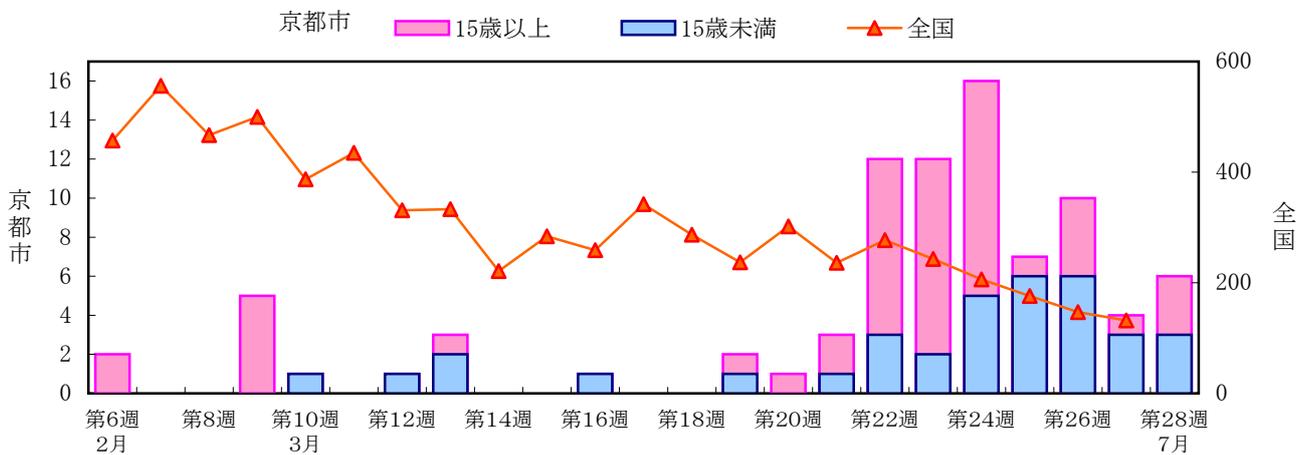
年齢群では、第25週以降第27週まで、15歳未満の報告数が15歳以上の報告数を上回っていますが、第1週からの累積では、15～19歳が23例と最も多く、全体の31.4%を占めています。

病型別では、麻しん（臨床診断例）が55例、麻しん（検査診断例）が26例、修飾麻しん（検査診断例）が5例となっています。

ワクチン接種歴では、1回接種ありが16例で、接種時期は、0歳時が1例、1歳時が8例、不明が7例です。

なお、個々の報告例の詳細を、週報3ページ目の「平成20年 京都市麻しん発生状況速報」に掲載しています。

平成20年 報告数の推移（～平成20年第28週）



ワクチン接種歴 / 性別 / 年齢群 (人)

	ワクチン接種歴						全体			
	有			無 又は 不明			男	女	計	%
	男	女	計	男	女	計				
0～4歳	1	-	1	7	1	8	8	1	9	10.5
5～9歳	2	2	4	4	6	10	6	8	14	16.3
10～14歳	3	-	3	7	2	9	10	2	12	14.0
15～19歳	5	2	7	13	7	20	18	9	27	31.4
20～24歳	1	-	1	4	7	11	5	7	12	14.0
25～29歳	-	-	-	3	3	6	3	3	6	7.0
30歳以上	-	-	-	3	3	6	3	3	6	7.0
計	12	4	16	41	29	70	53	33	86	100.0

病型別 内訳 (人)

麻しん(臨床診断例)	55(9)
麻しん(検査診断例)	26(5)
修飾麻しん(検査診断例)	5(2)

()内 ワクチン接種歴あり